

あみまちを食べよう学校給食事業（メロンの日）授業参加報告

茨城県阿見町との連携協定に基づく食育授業の第2回目は、学校給食メロンの日にあわせて「メロン」をテーマに、阿見町立阿見小学校の5年生73名を対象に行い、本学からは第1回に引き続き、教員2名（宮口・須藤）と園芸学研究室の学生2名（規井・鈴木）が参加しました。

授業の前半では、規井さんがメロンの原産地や種類、網目模様のでき方などについての話をしました。児童たちは熱心にメモを取りながら聞き入っており、時折出される質問やクイズにも積極的に答えていました。後半は、栄養教諭の高安さんを中心に授業が進められ、地元生産者の木村さん、農協職員の結束さんによる解説も交えながら、阿見町の特産品である阿見グリーンメロンの栽培について、発芽から収穫までを順を追って学んでゆきました。



質問コーナーでは次々に児童の手が挙がり、「美味しいメロンはどこで見分けるの?」「作っていて一番大変なことは?」「阿見グリーンメロンはどうして細長いの?」など、さまざまな質問が寄せられました。茨城県が県別生産量国内1位だということは多くの児童が知っていましたが、栽培している現場を見たことのある児童はごくわずかだったため、興味深く聞いてもらえたようです。

今回は、授業時間内での「試食」は行いませんでしたが、給食の時間には、本来の給食として供されたメロンに加え、「授業用」として農協からいただいたメロンも実食し、児童たちは、甘さや香りなど食べ比べでの感想を楽しそうに話し合っていました。

茨城大学農学部研究推進委員会地域連携部門